

令和 4 年 3 月 31 日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立波野小学校（外 11 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立波野小学校	http://	http://

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

(1) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
89.9%	5.9%	1.7%	2.5%

② 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
90.7%	8.5%	0%	0.8%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
90.7%	6.8%	0%	2.5%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという と知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
86.5%	7.6%	4.2%	1.7%

(2) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
81%	16%	3%	0%

② 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	楽しくない
75%	16%	7%	2%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになり たい	どちらかという 話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
79%	14%	4%	3%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという 知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
73%	20%	4%	3%

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
58.8%	29.4%	11.8%	0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかという 思う	どちらかという 思わない	思わない
82.4%	17.6%	0%	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
41.2%	41.2%	17.6%	0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・学習としての外国語に対する苦手意識を持つ前に、コミュニケーションのツールとして、楽しさをまず味わうことは、外国語の入口として有効であり、意味があることだと思う。 ・楽しい活動を通して、英語に慣れ親しむ ・外国人のALTとのふれあい。 ・外国の人と触れ合うこと。 ・楽しく学べるといいと思います ・外国語に触れる機会を増やし、外国語に対する興味・関心を高めることに繋がればいいと思います。 ・グローバルな子供達の育成につながると思います。英語に対する苦手意識がなくなります。 ・子供たちがたのしく活動できるようにALTと打ち合わせを密にして今後も授業に取り組みたいと思います。 ・先ずは、外国の事を教えてからだと思います。 ・その為には、自国の成り立ちから(神話や、伝承)教えることが、もっとも大事だと思います。 ・その上で、自国との違いを覚え、興味を持ったところで、初めて外国語の学習をした方が良くと思います。 ・違う環境や国の人とも積極的に関わったり、他の国に興味をもったりできるきっかけとなるような外国語活動にしていきたいです。 ・楽しいゲーム取り入れて、外国語に親しめる活動 ・発言する場がもっとあると良い

(4) 保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
58.3%	33.8%	6.6%	1.3%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
72.2%	26.5%	1.3%	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
47%	35.8%	14.6%	2.6%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション ・ 英語に苦手意識を持ってもらいたく無いので、なんでも楽しい! と思ってもらえるような授業をして貰えたら嬉しいです。 ・ 英語が楽しいと思える授業をお願いしたいです。 ・ 異文化交流に興味をもち積極的にコミュニケーションがとれるきっかけになってほしい ・ 外国語の聞き取り力 ・ 外国語によるコミュニケーション能力の向上 ・ 早く始めることで読む、話す力を付けて行って欲しい。 ・ 外国語活動をする事で、今後学習に移行した時に自然と入って行きやすい環境になればいいと思っています。 ・ 日本語だけではないという広い視野。楽しみながら学ぶという取り組み方。語学は早いうちからコツコツ取り組むことが、大切だと思っています。オンラインでも、英語の授業に取り組む様子は楽しそうで声を出して発散するにも、とても良い経験と思いました。 ・ 母国語以外に興味関心を持てればよい 			

- ・楽しく学べるともっと身近に感じるようになると思います。
- ・英語への興味
- ・ゲームや歌などで、外国語に触れる時間を増やして欲しい。
- ・ネイティブな発音を聞き取れる事。
- ・特になし
- ・英語を身近に感じて欲しい。
- ・低年齢のうちから、ネイティブスピーカーの英語を聴く事で、英語耳になる事を
- ・期待する。
- ・日常生活で使うものなどを外国語で知り、そこから会話として身に付いていくことです。
- ・コミュニケーション
- ・楽しんで取り組めればと思う
- ・積極性
- ・英語を楽しめるような授業を展開してほしい。
勉強してる！と言うより、楽しく音に慣れて英語に興味を持ってくれること。
英語が身近なものに感じられるかと思います。
- ・外国語に親しみ、外国の文化に興味を持つことができる。
- ・低学年には、まず外国、外国人に対する関心を高める教育が必要かと思います。
- ・英語を早く覚えられる
- ・英語を楽しんで話す
- ・楽しく学べて、英語が少しでも話せるようになってもらいたい。
- ・楽しく英語に興味を持つ授業にして欲しい
- ・外国語に慣れ親しみ身近に感じる事、外国の文化に触れ合う楽しさを感じて欲しい。
- ・英語が楽しいこと
- ・自己表現が恥ずかしくなく出来るようになる事。
- ・簡単な日常会話や英単語の習得
- ・簡単な日常会話や英単語
- ・もっと社会で使える英語を子どもたちに教えてほしい。
- ・英語の楽しさを学ぶ
- ・ALT を積極的に活用したコミュニケーション活動
- ・発音などに力を入れてもらいたいです
- ・英語は楽しい。面白いと思えるように
- ・他国の方とのコミュニケーションをとる楽しさを感じて欲しいです。
- ・覚えるというより、楽しく学べること。
- ・難しいと思いますが、外国の子供達とのオンラインなど、簡単な交流、経験で少しでも興味を持ってもらえたらと思います。
- ・勉強としての英語、という感覚になる前にコミュニケーション重視の外国語活動を期待します。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校においては、外国語に慣れ親しみ、進んで外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする児童が多く見られる。第1学年の児童について、95.8%が外国語活動の時間は「楽しい」「どちらかという楽しい」と答え、外国語活動を楽しんでいる。

また、第2学年では97%の児童が、外国語活動の時間が「楽しい」「どちらかという楽しい」と答えている。

多くの児童が英語の学習を楽しみにしており、楽しむことで、音やリズムが自然に身に付けている。また、休み時間などに、児童がALTに英語で挨拶をしたり、英語で会話をしたりする場面を多く見ることができるなど、英語に慣れ親しんでいる。

一方、1年生・2年生ともに、数パーセントの児童が「どちらかという楽しくない」と答えているため、苦手意識をもたせない授業の工夫・改善が必要である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

6年生が受検したGTEC Juniorでは、昨年度に比べて全体のジュニアグレード4を占める割合が43.9%から54.0%へ上昇した。特に「読む力」においては29.8%から38.1%、「書く力」においては、33.3%から54.0%へ向上した。

また、6年生が受検した英検ESGでは、約半数の児童が501～550のスコアレンジに入った。

以上のことから、本校においては、第1学年から外国語活動を実施することにより、着実に力が付いていると考える。

一方で、音と文字の対応について苦手意識をもっている児童もいるため、音と文字の対応についての指導の工夫・改善が必要である。

5. 課題の改善のための取組の方向性

本校では、第1学年から外国語活動に取り組むことで、外国語に慣れ親しみ、外国語活動が「楽しい」と感じている児童が多い。また、進んで外国語でコミュニケーションを図ろうとする児童が多く見られる。

しかし、学年が上がるにつれて、外国語活動を楽しく感じることはできない児童の割合が増えている。特に、音と文字の関係についての理解が不十分なため、英語を読んだり書いたりすることに、苦手意識が生まれていると考える。児童にとって身近で興味があるもののつづりが添えられている絵カードを使った言語活動などを行い、音と文字の対応への気付きを促す活動を増やしていきたい。また、発達段階や文字と発音についての習熟度に応じて、フォニックスの指導を取り入れ、楽しみながら自信をもって英語を読んだり書いたりできるように指導の工夫と改善を図りたい。